

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	井上 翼	学校名	習志野市立第四中学校
実施学年	第2学年	教科	社会
単元名	中部地方		

《学びを深めたいポイント》

この単元では、「中部地方では、なぜ各地に個性豊かな産業が発達しているのだろうか」という学習課題を設定し、東海・中央高地・北陸の産業の特色を捉え、それぞれの地域で盛んに行われている理由について地形、気候、歴史などの多角的な視点で捉えさせることを目標とする。授業ではジグソー法を用いる。活動に充てる時間を2時間とり、最初の1時間で班ごとに各地域の担当を振り分け、同じ担当同士で調べる。次の1時間で班に戻ってそれぞれ調べたことを共有し、ノートにまとめる。この2時間の中で、生徒は自分の担当する地域の産業の特色について調べるとともに、その産業が盛んになった理由について考え、根拠を調べながらまとめていく活動を行っていく。学びを深めるポイントは、調べた情報を班で共有する活動の際に、自分とは異なる視点の意見に多く触れさせるという点である。単に口頭で説明するだけでは、情報が抜け落ちたり上手く伝わらなかったりすることがあるため、発表ノートを使用して視覚的な情報を基に共有をする。特に産業が発達した理由について共有することは、多くの視点に触れることで物事を多角的に捉える力を養うことができると考える。

《SKYMENU 活用のポイント》

本時では、中部地方の産業について調べたことを班で共有をする活動をメインに行う。活動の際に学びを深めたいポイントは以下のとおりである。

- ① 調べた内容をまとめる活動
- ② グループワーク機能を用いた共有活動
- ③ 画面提示機能を用いた共有活動

いずれも発表ノートを使用する。①はあらかじめ調べる項目を提示したノートを配布する。生徒は調べた内容をこのノートに入力し、共有をする際に用いる。②は①で入力したノートを用いて班ごとに共有を行う活動である。この活動には発表ノートのグループワーク機能を使用する。この機能は、自分のタブレットに同じ班員のノートを表示させることができ、口頭での発表が苦手な生徒や書くことが苦手な生徒に有効であると考えられる。この機能を用いて共有活動を行うことで、自分が調べたこととは異なる内容に触れることで学びを深めることができる。さらに提出をすれば学級全員のノートが共有され、さらにいろいろな考えに触れることができる。③は、教師側のタブレットの画面を提示し、模範となる生徒の発表ノートを全体に共有する活動である。メリットとしては、調べたり共有したりする活動が不十分な生徒にも、教師側で想定する内容をある程度共有できるという点である。上記の3つのそれぞれの活動の中で SKYMENU を活用することで、生徒の学びをより深めていきたい。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の内容の確認 (東海・中央高地・北陸の産業の特色について調べた。) ・本時の活動について説明 生活班内で自分の調べたことについて共有し、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SKYMENU を開き、前回作成したノートを開く。 	
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・班員同士で調べた内容を共有する。 ・発表を聞いてノートにまとめる。 ・各地域の担当から数名ピックアップをし、全体に共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク機能を使用し、班員同士で共有をしやすくする。 ・持ち帰り機能を使用し、自分が特にわかりやすいと思ったスライドを持ち帰る。 ・教師側の画面提示機能を使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭で共有がしにくい生徒(緘黙等)でも班員に考えを伝えやすくする。 ・他の担当の人のものだけでなく自分と同じ地域を担当した人のスライドも持ち帰ってもよとする。 ・活動が十分に行われなかった班員に対して共有を行うことができる。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・リフレクションシートを記入する。 		

《実践を振り返って》

今回の内容は、中部地方の三つの地域を産業という視点で見て、それぞれの地域の特色を多角的に捉える力を養う力を身につけさせることを目的とした。活動を通しての成果は、自分の調べたことを共有するハードルが下がり、比較的活発に活動をするようになってきた点である。大人しい生徒が多く普段はなかなか話し合い活動ができない班でも、積極的に意見交換を行う場面が見られた。生徒に直接話を聞いたところ、最初から自分の意見を言わなくてよいこと、相手の意見が可視化されていてどんな話をしているのかがわかりやすいという点が要因として挙げた。発表ノートの利点である共有のしやすさは、生徒自身も実感が持てたということが分かった。さらに共有する時間が短くなった分、ノートへのまとめも十分な時間を確保することができた。これは ICT 活用そのものの目的とは少しずれるが、活動時間が短縮されたことによる付加価値的な部分も実感することができた。反省としては、タブレットが修理中等の理由で使用できない生徒への配慮が上手くできなかったという点がある。調べ学習を担当ごとにグループ分けした背景にはそのような生徒への配慮という部分があったが、実際には調べるツールも教科書や地図帳に限定されてしまい、タブレットを使用した生徒に比べて調べられることが限られてしまっていた。また、担当のグループは元の生活班の中でランダムに分担しているため、中には男子(女子)が一人だけというグループもできてしまい、活動がしづらい生徒が出てきてしまうこともあった。

